

# 枚方市商工だより

(2010年4月)

[主な内容]

地域経済動向調査VOL - 82 (2010年1~3月)

枚方市

【調査の概要】

本調査は、枚方市の委託事業として北大阪商工会議所が実施しているもので、地域経済の総合的な動向を把握することで、産業振興のための基礎資料として利用するとともに、地域の経営者等へ情報提供している。

調査対象は、製造業、建設業、卸売業、小売業、飲食業、サービス業の6業種で、市内の主要な産業を網羅している。

企業規模は、製造業は全数を、その他の業種は、従業者規模5人以上の事業所から無作為抽出している。

調査方法は、往復はがきによるアンケート方式で、2010年4月上旬に997社に発送し、回答期限までに242社から回答が得られた。

全体の回答率は24.3%で、業種別・規模別回答状況は、表1、表2の通りである。

表1. 業種別回答状況

集約業種名		母集団	回答数	回答率
製造業	食料・飲料	37	7	18.9
	繊維・衣服	63	6	9.5
	木材・家具	19	3	15.8
	紙・出版・印刷	37	7	18.9
	化学・プラスチック	56	17	30.4
	鉄鋼・非鉄金属	28	15	53.6
	金属製品	65	15	23.1
	一般機械	70	14	20.0
	電気機械	37	8	21.6
	その他の製造業	41	13	31.7
製造業計		453	105	23.2
非製造業	建設業	109	35	32.1
	卸売業	63	14	22.2
	小売業	189	38	20.1
	飲食店	62	13	21.0
	サービス業	121	37	30.6
	非製造業計		544	137
合計		997	242	24.3

表2. 規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率
1～3人	99	6	6.1	29	8	27.6	128	14	10.9
4～9人*	104	16	15.4	228	57	25.0	332	73	22.0
10～19人	80	19	23.8	154	26	16.9	234	45	19.2
20～29人	29	10	34.5	57	19	33.3	86	29	33.7
30～49人	48	23	47.9	40	10	25.0	88	33	37.5
50～99人	36	15	41.7	20	8	40.0	56	23	41.1
100～199人	37	13	35.1	11	5	45.5	48	18	37.5
200～299人	7	1	14.3	3	3	100.0	10	4	40.0
300人以上	13	2	15.4	2	1	50.0	15	3	20.0
合計	453	105	23.2	544	137	25.2	997	242	24.3

\*)非製造業の規模4～9人は5～9人である。

## 【 概 要 】

製造業の生産額、出荷額には大きな変化はない。前年同期比での生産額には改善がみられる。製品販売価格、設備投資額も前年同期と比べ、回復している。

非製造業の売上額には、大きな変化はない。前年同期比では、売上額、客数・販売先数、設備投資額にはいずれも改善がみられる。

向こう3カ月の景気見通しは、製造業では好転する見方はまだ少ない。非製造業では、業種によってばらつきがみられる。

政府は4月の月例経済報告で、「景気は持ち直してきている」という基調判断を据え置いた。輸出についても、前月に引き続き「緩やかに増加している」としている。先行きについては、当面、雇用情勢に厳しさが残るものの、企業収益の改善が続く中で、海外経済の改善や緊急経済対策を始めとする政策の効果などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。一方、海外景気の下振れ懸念、デフレの影響など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。また、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

総務省が発表した3月の完全失業率は5.0%で、前月と比べ0.1P(ポイント)上昇している。厚生労働省によると3月の有効求人倍率は0.49倍と、前月に比べ0.02P上がった。

日本政策金融公庫の発表した4月の全国小企業月次動向調査によると、売上D.Iは5ヵ月連続で上昇し、マイナス26.9Pとなった。前月比で3.7P上昇している。製造業の売上は前月比16.5P改善し、1.5と、2007年6月以来、約3年ぶりにプラスに転じた。うち金属・機械分野で大幅にD.Iが上昇した。非製造業も前月比3.2P改善しマイナス30.1Pとなった。

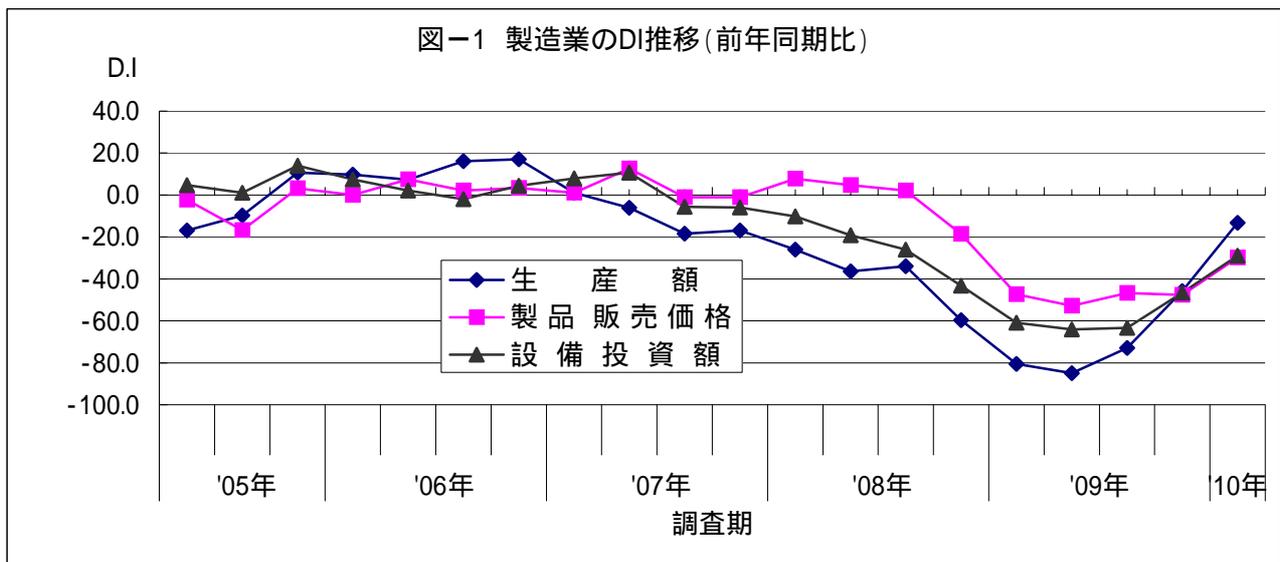
帝国データバンクによると、2010年4月の倒産件数は962件で、前月比16.2%の減少である。前年同月比も17.7%の減少で、8ヵ月連続で前年同月を下回っている。建設業が公共工事受注後の一時的な入金増で一息ついたことが要因となっている。負債総額は2,545億800万円で、前月と比べると14.1%、前年同月比で49.8%の減少となり、3ヵ月連続で前年同月を下回った。その中で、不況型倒産の合計は770件で80.0%を占めている。不況型の倒産は11ヵ月連続で80%台の高水準となっている。全体のうち中小企業の倒産は957件で全体の99.5%、小規模企業は812件で84.4%を占め、依然として小規模倒産は高水準で推移している。

今後、公共事業費の大幅削減が建設業に及ぼす影響、貸金業法改正による与信の厳格化で小規模企業の資金繰りが一段と悪化する懸念、天候不順の影響による食料や衣料品関連の経営難が表面化する可能性など、未だ状況は予断を許さない。

2010年第 四半期(1～3月)の枚方市製造業の生産額・出荷額には、大きな変化はない。受注状況は、D.Iのマイナス幅が僅かながら縮小している。

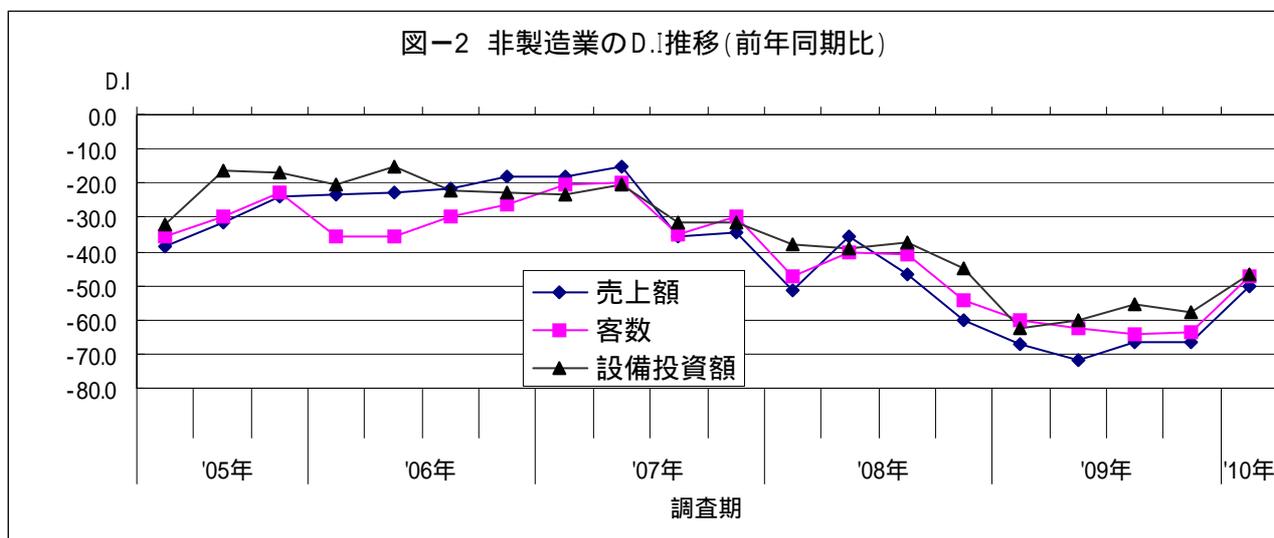
製品在庫額は、適正水準にある企業が大勢を占めている。原材料仕入額は、D.Iが再びマイナスからプラスに転じた。採算状況には、改善がみられない。資金繰りは、横這企業が過半数を占めている。

前年同期比では、生産額は回復がみられる。設備投資額にも、改善がみられる。(図1)



非製造業の売上額には、改善がみられない。採算状況や資金繰りは、依然として厳しい状況である。

前年同期比では、売上額、客数、設備投資額、いずれも回復の動きがみられる。(図2)



(注) 景気動向指標 (D.I = Diffusion Index)  
 = (増加・好転した企業の割合) - (減少・悪化した企業の割合)

表3 . 総括表(DIの推移)

景気動向指標		'05年			'06年				'07年				'08年				'09年				'10年	
製 造 業	前 期 比	生産額	-13.5	-1.9	15.8	0.0	-2.1	14.9	20.0	-7.4	-17.3	-17.4	-1.1	-26.9	-33.6	-33.0	-56.1	-70.8	-55.7	-27.8	-20.4	-21.0
		出荷額	-14.9	2.0	19.4	-2.4	-4.3	20.4	19.1	-5.3	-14.4	-16.5	-1.1	-22.8	-28.0	-35.4	-58.8	-68.1	-58.5	-30.8	-19.6	-18.3
		製品在庫額	-13.1	-10.0	-5.5	-6.7	-14.6	-7.4	-9.0	-6.6	-6.5	-12.8	-6.0	-12.5	-14.3	-9.7	-27.5	-23.3	-21.8	-19.6	-11.0	-17.0
	前 同 期 比	原材料仕入額	64.4	51.0	46.7	53.2	65.3	66.7	54.3	57.9	64.6	55.6	62.8	63.0	81.3	67.7	6.3	-17.0	-1.9	7.6	-2.8	19.2
		製品販売価格	-8.0	-14.7	-1.1	-1.3	4.2	1.0	-3.3	-4.3	5.3	0.0	8.0	4.3	3.8	1.0	-19.8	-38.4	-38.7	-27.4	-31.4	-21.2
		採算状況	-36.0	-32.7	-12.8	-12.2	-33.3	-28.0	-19.1	-33.7	-33.7	-33.0	-48.3	-35.9	-54.2	-56.7	-63.2	-74.6	-63.6	-46.3	-31.5	-38.1
		資金繰り	-17.0	-9.7	2.2	0.0	-13.8	-5.1	-5.4	-14.9	-6.2	-15.4	-25.0	-16.3	-27.1	-33.0	-37.2	-52.7	-45.3	-33.6	-28.0	-27.9
	前 同 年 比	受注状況	-21.3	-8.7	7.5	6.1	-1.0	6.9	9.6	-10.5	-13.4	-27.2	-5.7	-23.7	-38.7	-43.3	-67.5	-79.8	-69.2	-34.3	-29.9	-21.9
		向こう3ヵ月の景況	-11.4	1.9	2.2	8.6	8.4	10.9	-2.1	-5.4	-4.1	-7.8	-24.4	-30.0	-34.3	-48.5	-77.0	-67.3	-38.3	-33.3	-30.6	-30.5
		生産額	-16.9	-9.7	10.6	9.8	7.3	16.2	17.0	1.1	-6.1	-18.5	-16.9	-26.1	-36.4	-34.0	-59.6	-80.5	-84.9	-72.9	-45.8	-13.3
非 製 造 業	前 期 比	製品販売価格	-2.3	-16.8	3.2	0.0	7.4	2.1	3.3	1.1	12.6	-1.1	-1.1	7.7	4.7	2.1	-18.6	-47.3	-52.8	-46.7	-47.6	-29.8
		設備投資額	4.7	1.0	14.0	7.5	2.2	-2.0	4.4	7.9	10.6	-5.6	-5.9	-10.2	-19.2	-26.0	-43.2	-60.9	-64.1	-63.4	-46.6	-29.0
	前 同 期 比	売上額	-34.5	-24.8	-14.3	-23.9	-6.4	-21.7	-9.3	-20.2	-14.4	-22.6	-25.2	-42.2	-40.3	-38.4	-52.7	-66.7	-47.9	-57.9	-43.5	-43.8
		採算状況	-41.5	-51.9	-26.6	-43.3	-35.0	-39.1	-30.7	-34.4	-30.3	-43.1	-46.9	-55.6	-57.0	-55.5	-66.4	-73.9	-60.0	-69.9	-54.4	-54.4
		資金繰り	-26.4	-30.3	-18.2	-22.7	-25.4	-27.1	-20.5	-25.4	-18.0	-29.8	-30.6	-37.3	-38.9	-43.2	-44.3	-56.3	-46.2	-50.4	-40.6	-41.5
	前 同 年 比	向こう3ヵ月の景況	-34.5	-27.5	-19.9	-10.7	-22.8	-23.9	-25.8	-26.0	-30.1	-34.1	-47.3	-54.1	-52.8	-60.0	-74.0	-67.4	-50.7	-51.9	-63.7	-46.3
		売上額	-38.7	-31.4	-23.7	-23.6	-22.9	-21.7	-17.8	-18.1	-15.4	-35.5	-34.7	-51.5	-35.7	-46.5	-60.3	-67.4	-71.7	-66.7	-66.4	-50.0
客数・販売先数		-35.8	-29.7	-22.6	-35.8	-35.6	-29.9	-26.5	-20.6	-19.8	-35.2	-29.7	-47.3	-40.4	-41.1	-54.3	-60.2	-62.7	-64.0	-63.7	-47.5	
年 比	設備投資額	-31.9	-16.3	-17.0	-20.2	-14.9	-22.1	-22.6	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8	-37.4	-44.9	-62.2	-60.3	-55.5	-57.8	-47.0	

## 業種別の景気動向

### 1. 製造業の景気動向

#### 【生産額】

前期と比べた当期（2010年1～3月）の生産額は、増加21.9%、横這35.2%、減少42.9%となっている。

業種別にみると、食料・飲料ではD.Iが再びプラスからマイナスへ転じている。繊維・衣服、紙・出版・印刷では、増産企業は皆無で、減産企業が多数を占めている。化学・プラスチックではD.Iのマイナス幅が拡大している。鉄鋼・非鉄金属、電気機械ではD.Iがマイナスからプラスへ転じている。

前年同期比では、増加27.6%、横這31.4%、減少41.0%で、総合D.Iはマイナス13.3Pである。前期と比べると、D.Iのマイナス幅が縮小している。

業種別にみると、繊維・衣服、木材・家具、紙・出版・印刷では増産企業はみられない。鉄鋼・非鉄金属では増産企業が半数を超えている。繊維・衣服、木材・家具、その他の製造業では減産企業が過半数を占めている。（表4）

表4. 生産額

業 種	当期の生産額は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食 料 ・ 飲 料	7	14.3	57.1	28.6	-14.3	7	14.3	57.1	28.6	-14.3
	繊 維 ・ 衣 服	6	0.0	16.7	83.3	-83.3	6	0.0	16.7	83.3	-83.3
	木 材 ・ 家 具	3	33.3	0.0	66.7	-33.3	3	0.0	33.3	66.7	-66.7
	紙 ・ 出 版 ・ 印 刷	7	0.0	28.6	71.4	-71.4	7	0.0	57.1	42.9	-42.9
	化 学 ・ プ ラ ス チ ッ ク	17	5.9	35.3	58.8	-52.9	17	17.6	47.1	35.3	-17.6
	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	15	46.7	33.3	20.0	26.7	15	66.7	13.3	20.0	46.7
	金 属 製 品	15	20.0	46.7	33.3	-13.3	15	33.3	26.7	40.0	-6.7
	一 般 機 械	14	21.4	50.0	28.6	-7.1	14	28.6	28.6	42.9	-14.3
	電 気 機 械	8	50.0	37.5	12.5	37.5	8	50.0	25.0	25.0	25.0
	そ の 他 の 製 造 業	13	23.1	15.4	61.5	-38.5	13	15.4	23.1	61.5	-46.2
	製 造 業 計	105	21.9	35.2	42.9	-21.0	105	27.6	31.4	41.0	-13.3

## 【出荷額】

当期の出荷額は、増加 23.1%、横這 35.6%、減少 41.3%となっている。総合 D.I は マイナス 18.3P である。

業種別では、繊維・衣服、紙・出版・印刷では増加企業がみられない。減少企業は全ての業種でみられ、繊維・衣服、紙・出版・印刷では多数を占めている。化学・プラスチックは、D.I のマイナス幅が拡大している。鉄鋼・非鉄金属は D.I がマイナスからプラスへと転じている。(表 5)

表 5. 出荷額

業 種	出荷額は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製	食料・飲料	7	14.3	57.1	28.6	-14.3
	繊維・衣服	5	0.0	20.0	80.0	-80.0
	木材・家具	3	33.3	0.0	66.7	-33.3
造	紙・出版・印刷	7	0.0	28.6	71.4	-71.4
	化学・プラスチック	17	5.9	35.3	58.8	-52.9
	鉄鋼・非鉄金属	15	53.3	33.3	13.3	40.0
	金属製品	15	20.0	46.7	33.3	-13.3
	一般機械	14	21.4	42.9	35.7	-14.3
業	電気機械	8	50.0	37.5	12.5	37.5
	その他の製造業	13	23.1	23.1	53.8	-30.8
	製造業計	104	23.1	35.6	41.3	-18.3

## 【製品在庫額】

前期と比べた製品在庫額は、不足 4.0%、適正 75.0%、過剰 21.0%となっている。適正水準の企業が大半を占めている。総合 D.I は マイナス 17.0P である。

金属製品では過剰傾向が強まっている。金属製品以外の業種では、適正水準の企業が過半数を占め、安定している。(表 6)

表 6. 製品在庫額

業 種	在庫額は 前期に比べ					
	件数	不足	適正	過剰	D.I	
製	食料・飲料	7	0.0	71.4	28.6	-28.6
	繊維・衣服	4	0.0	100.0	0.0	0.0
	木材・家具	3	0.0	66.7	33.3	-33.3
造	紙・出版・印刷	7	0.0	85.7	14.3	-14.3
	化学・プラスチック	17	0.0	76.5	23.5	-23.5
	鉄鋼・非鉄金属	14	7.1	92.9	0.0	7.1
	金属製品	15	6.7	46.7	46.7	-40.0
	一般機械	13	7.7	76.9	15.4	-7.7
業	電気機械	7	14.3	71.4	14.3	0.0
	その他の製造業	13	0.0	76.9	23.1	-23.1
	製造業計	100	4.0	75.0	21.0	-17.0

## 【原材料仕入額】

前期と比べた原材料仕入額は、値上がり 24.0%、横這 71.2%、値下がり 4.8% である。総合 D.I はマイナス 19.2P で、再びマイナスからプラスに転じている。

業種別では、繊維・衣服では値上がりが、6割を占めている。化学・プラスチックでは D.I がマイナスからプラスへ転じている。鉄鋼・非鉄金属では過半数の企業が値上がりである。一般機械、電気機械は横這が大勢を占めていて、安定している。(表7)

表 7. 原材料仕入額

業 種	仕入額は 前期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	14.3	85.7	0.0	14.3
	繊維・衣服	5	60.0	40.0	0.0	60.0
	木材・家具	3	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	7	14.3	71.4	14.3	0.0
	化学・プラスチック	17	35.3	58.8	5.9	29.4
	鉄鋼・非鉄金属	15	53.3	40.0	6.7	46.7
	金属製品	15	20.0	73.3	6.7	13.3
	一般機械	14	7.1	92.9	0.0	7.1
	電気機械	8	0.0	100.0	0.0	0.0
	その他の製造業	13	15.4	76.9	7.7	7.7
製造業計	104	24.0	71.2	4.8	19.2	

## 【製品販売価格】

前期と比べた製品販売価格は、値上がり 3.8%、横這 71.2%、値下がり 25.0% となっている。横這が7割を占めており、総合 D.I は マイナス 21.2P である。

業種別では、値上がり企業は繊維・衣服、鉄鋼・非鉄金属、電気機械の3業種で見られる一方、値下がり企業は全ての業種にみられる。

前年同期比では、値上がり 8.7%、横這 52.9%、値下がり 38.5% となっている。総合 D.I はマイナス 29.8P で、D.I のマイナス幅は縮小している。(表8)

表 8. 製品販売価格

業 種	当期の販売価格は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	0.0	71.4	28.6	-28.6	7	14.3	28.6	57.1	-42.9
	繊維・衣服	5	20.0	60.0	20.0	0.0	5	0.0	40.0	60.0	-60.0
	木材・家具	3	0.0	66.7	33.3	-33.3	3	0.0	66.7	33.3	-33.3
	紙・出版・印刷	7	0.0	71.4	28.6	-28.6	7	0.0	57.1	42.9	-42.9
	化学・プラスチック	17	0.0	94.1	5.9	-5.9	17	0.0	76.5	23.5	-23.5
	鉄鋼・非鉄金属	15	13.3	60.0	26.7	-13.3	15	33.3	20.0	46.7	-13.3
	金属製品	15	0.0	80.0	20.0	-20.0	15	0.0	60.0	40.0	-40.0
	一般機械	14	0.0	50.0	50.0	-50.0	14	7.1	42.9	50.0	-42.9
	電気機械	8	12.5	62.5	25.0	-12.5	8	25.0	50.0	25.0	0.0
	その他の製造業	13	0.0	76.9	23.1	-23.1	13	0.0	76.9	23.1	-23.1
製造業計	104	3.8	71.2	25.0	-21.2	104	8.7	52.9	38.5	-29.8	

## 【採算状況】

前期に比べた採算状況は、好転 10.5%、横這 41.0%、悪化 48.6%となっている。総合 D.I は マイナス 38.1P である。

業種別では、食料・飲料、繊維・衣服、木材・家具、紙・出版・印刷、一般機械では、好転企業はみられない。また、電気機械以外の全ての業種で、悪化企業が好転企業を上回っている。

(表 9)

表 9. 採算状況

業種	採算状況は 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製	食料・飲料	7	0.0	71.4	28.6	-28.6
	繊維・衣服	6	0.0	33.3	66.7	-66.7
	木材・家具	3	0.0	33.3	66.7	-66.7
造	紙・出版・印刷	7	0.0	28.6	71.4	-71.4
	化学・プラスチック	17	5.9	29.4	64.7	-58.8
	鉄鋼・非鉄金属	15	20.0	40.0	40.0	-20.0
業	金属製品	15	13.3	46.7	40.0	-26.7
	一般機械	14	0.0	57.1	42.9	-42.9
	電気機械	8	37.5	50.0	12.5	25.0
	その他の製造業	13	15.4	23.1	61.5	-46.2
	製造業計	105	10.5	41.0	48.6	-38.1

## 【資金繰り】

前期と比べた当期の資金繰りは、好転 8.7%、横這 54.8%、悪化 36.5%となっている。総合 D.I は マイナス 27.9P である。

業種別では、繊維・衣服では好転企業は皆無であり、D.I のマイナス幅が拡大している。紙・出版・印刷でも好転企業は皆無で、過半数の企業が悪化している。一般機械では、横這企業が 7 割を占めている。(表 10)

表 10. 資金繰り

業種	資金繰りは 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製	食料・飲料	7	0.0	85.7	14.3	-14.3
	繊維・衣服	5	0.0	20.0	80.0	-80.0
	木材・家具	3	0.0	66.7	33.3	-33.3
造	紙・出版・印刷	7	0.0	42.9	57.1	-57.1
	化学・プラスチック	17	11.8	58.8	29.4	-17.6
	鉄鋼・非鉄金属	15	13.3	53.3	33.3	-20.0
業	金属製品	15	13.3	53.3	33.3	-20.0
	一般機械	14	0.0	71.4	28.6	-28.6
	電気機械	8	12.5	50.0	37.5	-25.0
	その他の製造業	13	15.4	38.5	46.2	-30.8
	製造業計	104	8.7	54.8	36.5	-27.9

## 【受注状況】

前期と比べた当期の受注状況は、増加 18.1%、横這 41.9%、減少 40.0%である。総合 D.I は マイナス 21.9P で、前期に比べると若干改善がみられる。

業種別では、金属製品の D.I のマイナス幅は縮小している。鉄鋼・非鉄金属、電気機械は D.I がマイナスからプラスへ転じている。繊維・衣服、木材・家具、紙・出版・印刷、その他の製造業では、減少企業が過半数を占めている。(表 11)

表 11. 受注状況

業 種	受注状況は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食 料 ・ 飲 料	7	14.3	71.4	14.3	0.0
	繊 維 ・ 衣 服	6	0.0	33.3	66.7	-66.7
	木 材 ・ 家 具	3	33.3	0.0	66.7	-33.3
	紙 ・ 出 版 ・ 印 刷	7	0.0	42.9	57.1	-57.1
	化 学 ・ プ ラ ス チ ッ ク	17	0.0	52.9	47.1	-47.1
	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	15	40.0	40.0	20.0	20.0
	金 属 製 品	15	26.7	33.3	40.0	-13.3
	一 般 機 械	14	7.1	57.1	35.7	-28.6
	電 気 機 械	8	37.5	37.5	25.0	12.5
	そ の 他 の 製 造 業	13	23.1	23.1	53.8	-30.8
製造業計	105	18.1	41.9	40.0	-21.9	

## 【設備投資額】

前年同期と比べた当期の設備投資額は、増加 14.0%、横這 43.0%、減少 43.0%となった。総合 D.I は マイナス 29.0P で、D.I のマイナス幅は縮小している。

業種別では、繊維・衣服では全ての企業が減少している。紙・出版・印刷では過半数の企業が減少している。鉄鋼・非鉄金属では D.I のマイナス幅が縮小している。金属製品は半数以上の企業が減少しているものの、D.I のマイナス幅は縮小している。電機機械は D.I がマイナスからプラスへ転じている。その他の製造業は、増加企業は皆無であるものの、D.I のマイナス幅は縮小している。(表 12)

表 12. 設備投資額

業 種	設備投資額は 前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食 料 ・ 飲 料	7	42.9	28.6	28.6	14.3
	繊 維 ・ 衣 服	4	0.0	0.0	100.0	-100.0
	木 材 ・ 家 具	3	0.0	66.7	33.3	-33.3
	紙 ・ 出 版 ・ 印 刷	7	14.3	28.6	57.1	-42.9
	化 学 ・ プ ラ ス チ ッ ク	16	12.5	50.0	37.5	-25.0
	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	15	13.3	53.3	33.3	-20.0
	金 属 製 品	15	13.3	33.3	53.3	-40.0
	一 般 機 械	14	7.1	50.0	42.9	-35.7
	電 気 機 械	7	42.9	28.6	28.6	14.3
	そ の 他 の 製 造 業	12	0.0	58.3	41.7	-41.7
製造業計	100	14.0	43.0	43.0	-29.0	

### 【向こう3ヵ月の景況】

来期の景気見通しは、好転 14.3%、横這 41.0%、悪化 44.8%となっている。総合 D.I は マイナス 30.5P である。

業種別では、繊維・衣服、木材・家具は、好転見通しは皆無である。紙・出版・印刷は、半数以上の企業が横這だが、D.I のマイナス幅は縮小している。食料・飲料以外の全ての業種で、悪化見通しが好転見通しを上回っている。

(表 13)

表 13. 向こう3ヵ月の景況

業種	向こう 3ヵ月の景況				
	件数	好転	横這	悪化	D.I
食料・飲料	7	14.3	71.4	14.3	0.0
繊維・衣服	6	0.0	33.3	66.7	-66.7
木材・家具	3	0.0	0.0	100.0	-100.0
紙・出版・印刷	7	14.3	57.1	28.6	-14.3
化学・プラスチック	17	11.8	41.2	47.1	-35.3
鉄鋼・非鉄金属	15	13.3	46.7	40.0	-26.7
金属製品	15	6.7	33.3	60.0	-53.3
一般機械	14	21.4	50.0	28.6	-7.1
電気機械	8	25.0	37.5	37.5	-12.5
その他の製造業	13	23.1	23.1	53.8	-30.8
製造業計	105	14.3	41.0	44.8	-30.5

## 2. 建設業の景気動向

建設業の売上額は、6割以上の企業で減少しており、依然として売上不振に陥っている。受注状況も、前期と同様に悪化企業が大勢を占めており、厳しい状況にある。

工事引合件数は、増加企業が僅かにみられるものの、依然減少企業が大勢を占めている。資材仕入額は、横這が大勢を占め、安定している。

労務費は、横這が大多数を占めている。採算状況は、好転企業は僅かで、悪化企業が大勢を占めている。

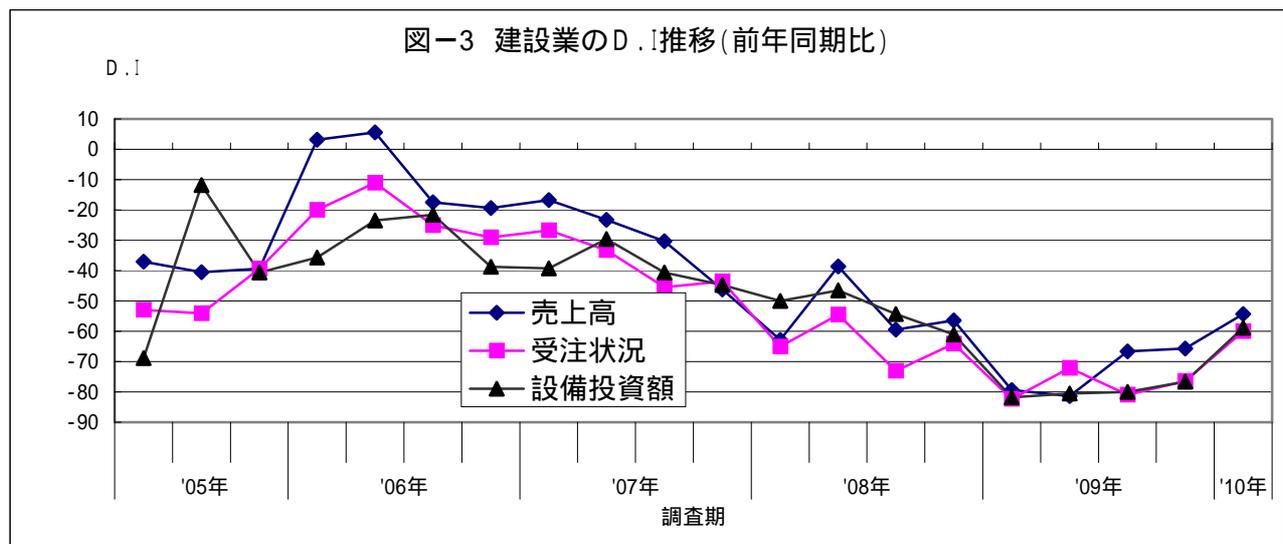
資金繰りは、好転企業は僅かで、過半数の企業が悪化している。

前年同期比では、売上額は減少企業が6割以上を占めており、D.Iはマイナス54.3Pである。受注状況については、D.Iはマイナス60.0Pで、改善はみられるものの、依然として状況は厳しい。設備投資額は、増加企業は皆無で、減少企業が過半数を占めるものの、D.Iのマイナス幅は縮小している。

向こう3ヵ月の景況感は、好転企業は僅かにみられるものの、悪化企業が7割以上を占め、見通しは暗い。(表14、図3)

表 14. 建設業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	35	17.1	20.0	62.9	-45.7
	資材仕入額	35	5.7	88.6	5.7	0.0
	労務費	35	0.0	82.9	17.1	-17.1
	工事引合件数	35	5.7	17.1	77.1	-71.4
	受注単価	35	0.0	37.1	62.9	-62.9
	採算状況	35	2.9	25.7	71.4	-68.6
	資金繰り	35	5.7	42.9	51.4	-45.7
前年同期比	受注状況	35	8.6	17.1	74.3	-65.7
	向こう3ヵ月の景況	35	2.9	25.7	71.4	-68.6
	売上額	35	11.4	22.9	65.7	-54.3
前年同期比	受注状況	35	11.4	17.1	71.4	-60.0
	設備投資額	34	0.0	41.2	58.8	-58.8





## 4.小売業の景気動向

小売業の売上額は、減少企業が6割を超え、D.Iはマイナス44.7Pとなっている。客数も、減少企業が6割を超えている。客単価は、引き続き減少傾向にある。商品在庫は、7割の企業が適正水準である。商品仕入価格は、横這企業が7割以上を占めている。

商品販売価格は、値下がり企業が半数を占めている。荒利益率は、好転企業は僅かで、横這企業が過半数を占めている。資金繰りは、悪化企業が半数以上を占めている。

採算状況も、好転企業は僅かで、悪化企業が6割を超えていて、依然として厳しい状況である。

前年同期比では、売上額は、減少企業が過半数を占めているものの、改善がみられる。客数も、減少企業が6割を占めているものの、D.Iのマイナス幅は縮小している。

向こう3ヵ月の景況感は、好転は僅かで、悪化が6割を超え、見通しは暗い。(表16、図5)

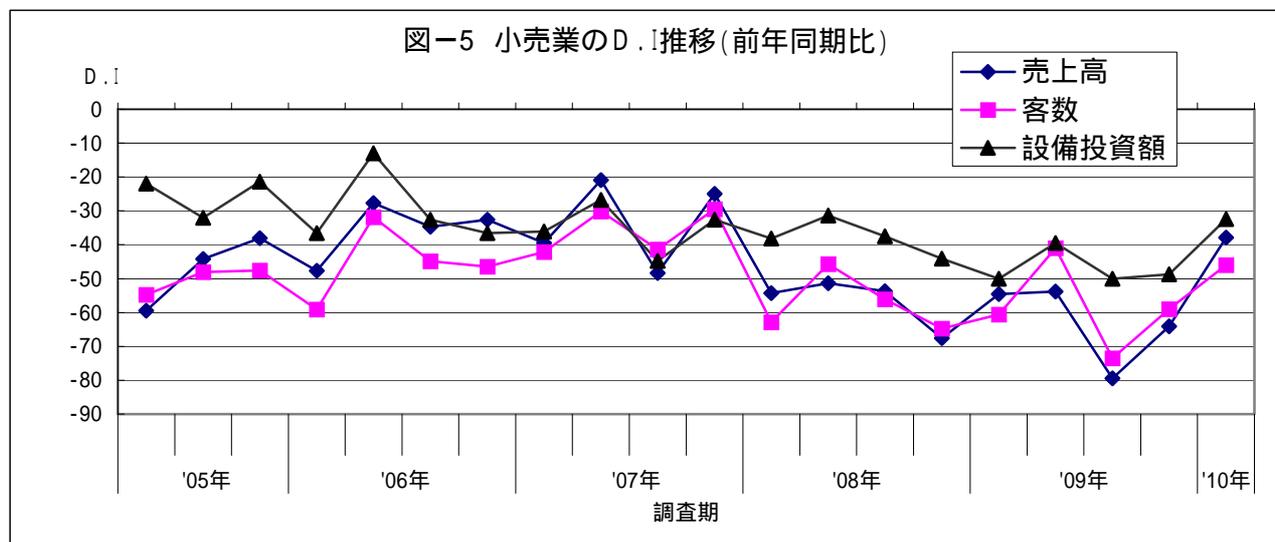
表 16. 小売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	38	15.8	23.7	60.5	-44.7
	客数	38	13.2	21.1	65.8	-52.6
	客単価	38	2.6	39.5	57.9	-55.3
	商品仕入価格	38	2.6	73.7	23.7	-21.1
	商品在庫	37	2.7	70.3	27.0	-24.3
	商品販売価格	38	2.6	47.4	50.0	-47.4
	採算状況	38	2.6	36.8	60.5	-57.9
	資金繰り	38	2.6	44.7	52.6	-50.0
	荒利益率	38	2.6	52.6	44.7	-42.1
	向こう3ヵ月の景況	36	2.8	36.1	61.1	-58.3
前年同期比	売上額	37	21.6	18.9	59.5	-37.8
	客数	37	16.2	21.6	62.2	-45.9
	設備投資額	37	10.8	45.9	43.2	-32.4

採算状況も、好転企業は僅かで、悪化企業が6割を超えていて、依然として厳しい状況である。

前年同期比では、売上額は、減少企業が過半数を占めているものの、改善がみられる。客数も、減少企業が6割を占めているものの、D.Iのマイナス幅は縮小している。

向こう3ヵ月の景況感は、好転は僅かで、悪化が6割を超え、見通しは暗い。(表16、図5)



## 5. 飲食店の景気動向

飲食店は前期に引き続き厳しい状況である。客単価、採算状況、資金繰り、粗利益率、いずれも好転企業は皆無である。

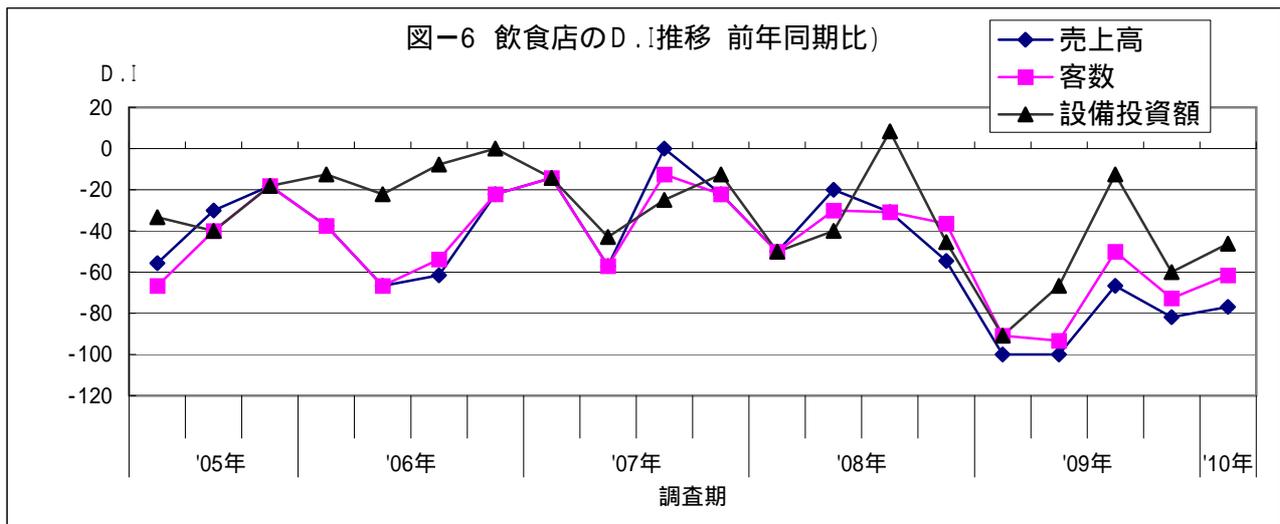
客単価は、減少企業が6割を占めているが、D.Iのマイナス幅には改善がみられる。

前年同期比では、売上額は7割以上の企業が減少している。客数も、増加企業は皆無である。設備投資額は、減少企業が過半数を占めるものの、D.Iのマイナス幅は縮小している。

向こう3ヵ月の景況感は、好転見通しが皆無で、横這企業が6割を占めている。依然として先行景況感に明るさはない。(表17、図6)

表 17. 飲食店の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	13	7.7	30.8	61.5	-53.8
	客数	13	7.7	38.5	53.8	-46.2
	客単価	13	0.0	38.5	61.5	-61.5
	採算状況	13	0.0	38.5	61.5	-61.5
	資金繰り	13	0.0	53.8	46.2	-46.2
	荒利益率	13	0.0	38.5	61.5	-61.5
前年同期比	向こう3ヵ月の景況感	13	0.0	61.5	38.5	-38.5
	売上額	13	0.0	23.1	76.9	-76.9
	客数	13	0.0	38.5	61.5	-61.5
設備投資額	13	7.7	38.5	53.8	-46.2	



## 6. サービス業の景気動向

サービス業の客数は、横這と減少が拮抗している。

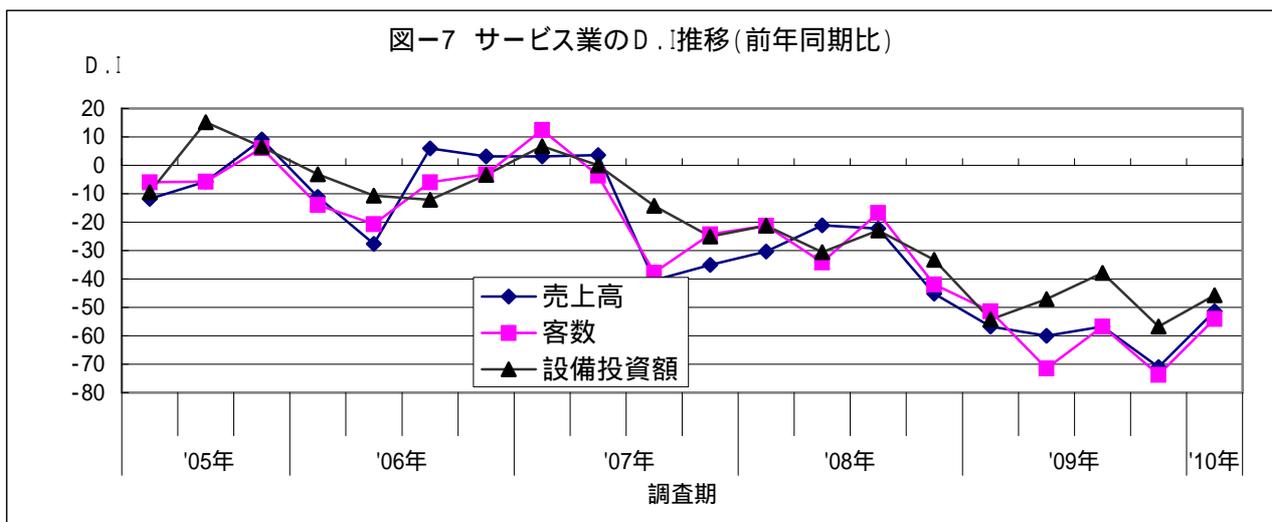
客単価は、増加企業は僅かで、横這企業が過半数を占めている。荒利益率は、横這企業が過半数を占め、D.Iのマイナス幅は縮小している。採算状況も、好転企業は少数で、悪化企業が過半数を占めている。資金繰りは、好転企業は僅かで、横這企業が6割を占めている。

表 18. サービス業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	37	13.5	37.8	48.6	-35.1
	客数	37	8.1	45.9	45.9	-37.8
	客単価	37	2.7	56.8	40.5	-37.8
	採算状況	36	8.3	38.9	52.8	-44.4
	資金繰り	35	2.9	62.9	34.3	-31.4
	荒利益率	37	5.4	54.1	40.5	-35.1
	向こう3ヵ月の景況	36	13.9	55.6	30.6	-16.7
前年同期比	売上額	37	10.8	27.0	62.2	-51.4
	客数	37	5.4	35.1	59.5	-54.1
	設備投資額	35	2.9	48.6	48.6	-45.7

前年同期比では、売上額は、減少企業が6割を占めるものの、D.Iのマイナス幅は縮小している。客数と設備投資額は、減少企業が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。

向こう3ヵ月の景況感は、悪化見通しが減少して、横這が過半数を占めており、D.Iのマイナス幅が縮小している。(表18、図7)



自由意見（原文のまま）

業 種 名	規模	自 由 意 見
総合工事業	B	一般住宅関係の話がなく、会社関係の仕事も減少。
	C	公共工事の事業予算を増やして欲しい。
		建設業です。どうにもなりません。
		民間の設備投資の減少、個人の購買意識の低下により、工事量、高額商品が伸びない。最悪の状態が続いています。助けて、神様！！
D	建設業、不動産業者にも今後やっていける（共同でもできる）業種を知りたいです。	
職別工事業	B	公共工事削減ばかりをうたう政府は、真に必要で有益な公共工事がある事を見ようとはしないのであろうか。
設備工事業	B	仕事ないですよ。（安いですよ。）お先真っ暗デス。
衣服・その他の繊維製造業	B	工事受注件数が少なくなる見込です。今後先は見えてきません。政府が悪い。
	A	収入が安定して不安がなくなれば、日本製の高価な服が売れて、業界全体が良くなると思います。
	B	衣料関係（帽子）の日本製は価格面で海外商品に対抗できず、前途に光明は見えてきません。廃業者が多い。
パルプ・紙・紙加工品製造業	C	問屋、アパレル、商社等の流通各社が中国生産を代表するコスト重視のビジネスに偏るので、日本のものづくりが育つわけがない。
	B	出荷率減少傾向並に受注状況も減少傾向。厳しさ増加。
	C	景気がとても悪い。
窯業・土石製品製造業	E	3月にまとまったスポット受注があり、何とか前年実績をキープできた。4月以降は不透明。
	F	リーマンショック前と比して、80%程度まで売上が回復している。しばらくは上向きそうである。
鉄鋼業	D	年度始めの4月～6月の仕事が昨年以上に激減している。
非鉄金属製造業	C	石油製品の仕入れ価格がじわじわと値上りしているが、C,Dに対して今まで以上に厳しく追求せねば利益が出せなくなっている。
金属製品製造業	A	景気の回復を待つより仕方がないと某経営コンサルタントの談。そうだ、万事自然体で臨もう。
	B	景気が悪すぎる。仕事が止まる。こんな時代は初めて経験する。本当に大変な時代を迎える。
	C	民主政権になってろくな事なし。
	E	年末まで景気の上向きは考えられない。
	F	昨年が6割以上の売上ダウンなので少しぐらい対前年同月比でプラスになっても苦しい状況には変わらない。今こそ賢明な政治家・官僚の出現が待たれる！
一般機械器具製造業	D	4月以降多少見通しも良くなる感がする。
	F	受注先の海外生産は増加しているが、国内景気が悪いため受注量の増加が少なく、今後の状況が見えていない???
	G	自動車用金型市場の回復の兆しはまだ見えてこない。底這いが続いている。
電気機械器具製造業	C	新しい仕事を積極的に取り込んでいるが、従来の仕事はどこにいったのだろう。オーイ！
	E	回復の兆しは見られるものの、先の見通しは依然として不透明である。新年度に向けて、明るい情報は少ない。

自由意見（原文のまま）

業 種 名	規 模	自 由 意 見
輸送用機械器具	E	市場動向上向くが...損益改善が思うようにいかず、原低取り組みが必要で、効率化が課題である。
繊維・衣服等 卸売業	B	業種的に消耗品関係は仕事量が少ないので、先行き不透明な感じは否めないが？
		仕事がないのに原料高から製品単価が急騰している。
織物・衣服・身の回り品小売業	B	近頃少し回復して参りました。今後の景気が気になりますがしっかり頑張っていきます。
飲食料品小売業	B	景気が底を打ったというマスコミ報道がありますが、当業界ではとても信じられません。将来が怖いです。
	C	S.O.S.もうだめ。
家具・建具・ じゅう器小売業	B	仕事がない。あっても利益が思うように取れない。
		多額の設備投資をコツコツと地道に減らすべく努力するのみ。
	C	中小企業は雇用を守れない状況になりつつある。
一般飲食店	B	最悪です。この不況をどう乗り越えるか？
		外食産業の安売りによる売上の減少など影響が大きい。
	C	駐車場付きの大手居酒屋には、客入りよさそう。飲酒運転者もかなりありそう。小商い店は、全くお先見え、です。
その他の飲食店	E	先行き不安。
洗濯・理容・ 浴場業	B	町自体に活気がなく、人（車）があまり外に出ていないようだ。
専門サービス業	D	退会者 増、入会者 減。

規模区分 A = 1～3人、B = 4～9人、C = 10～19人、D = 20～29人、  
E = 30～49人、F = 50～99人、G = 100人以上